

2016年3月期 第3四半期決算説明会

GMOクリックホールディングス

STOCK CODE : 7177

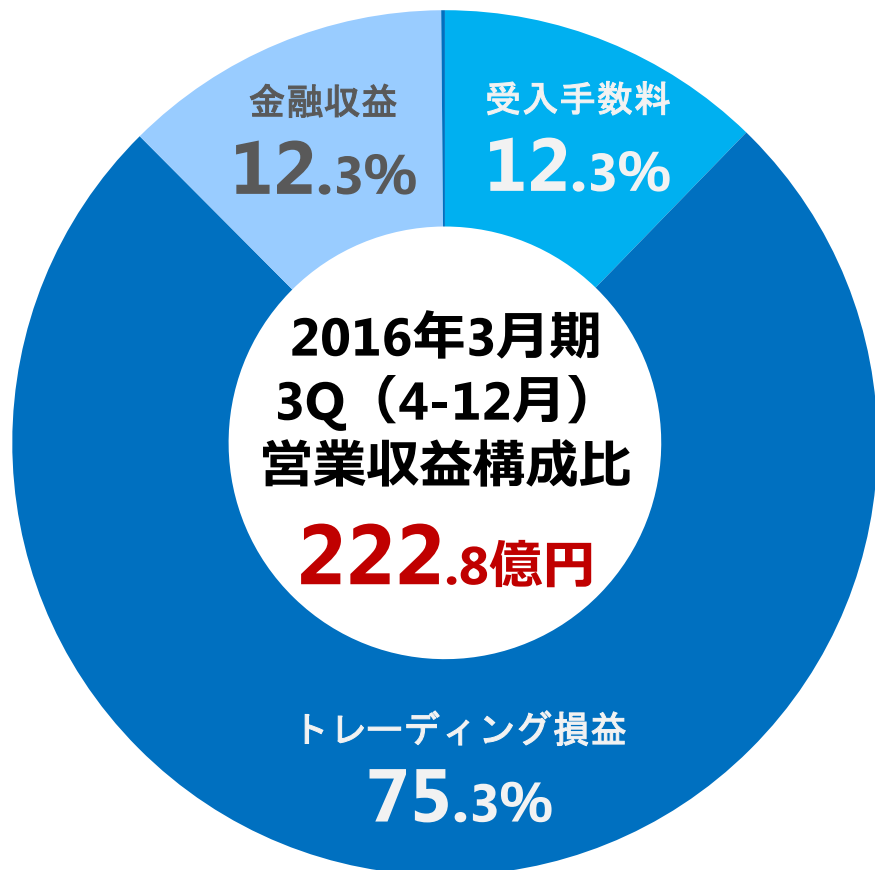
代表執行役社長 鬼頭 弘泰
執行役 財務・IR担当 山本 樹

2016年1月25日

1. 結論と要約
2. 2016年3月期3Q決算概要
3. ビジネスモデルと特長
4. 今後の展望と概況
5. Appendix

FX等の店頭デリバティブ取引が牽引し増収増益

(単位：億円)	2015年3月期 3Q (4月-12月)	2016年3月期 3Q (4月-12月)	前年同期比
営業収益	174.3	222.8	+ 27.8%
営業利益	52.9	84.1	+ 58.7%
経常利益	52.6	84.0	+ 59.6%
最終利益	36.2	49.9	+ 37.8%



金融収益

前年同期比**22.0%増**の**27.4億円**
株式信用取引の建玉増加により増収

受入手数料

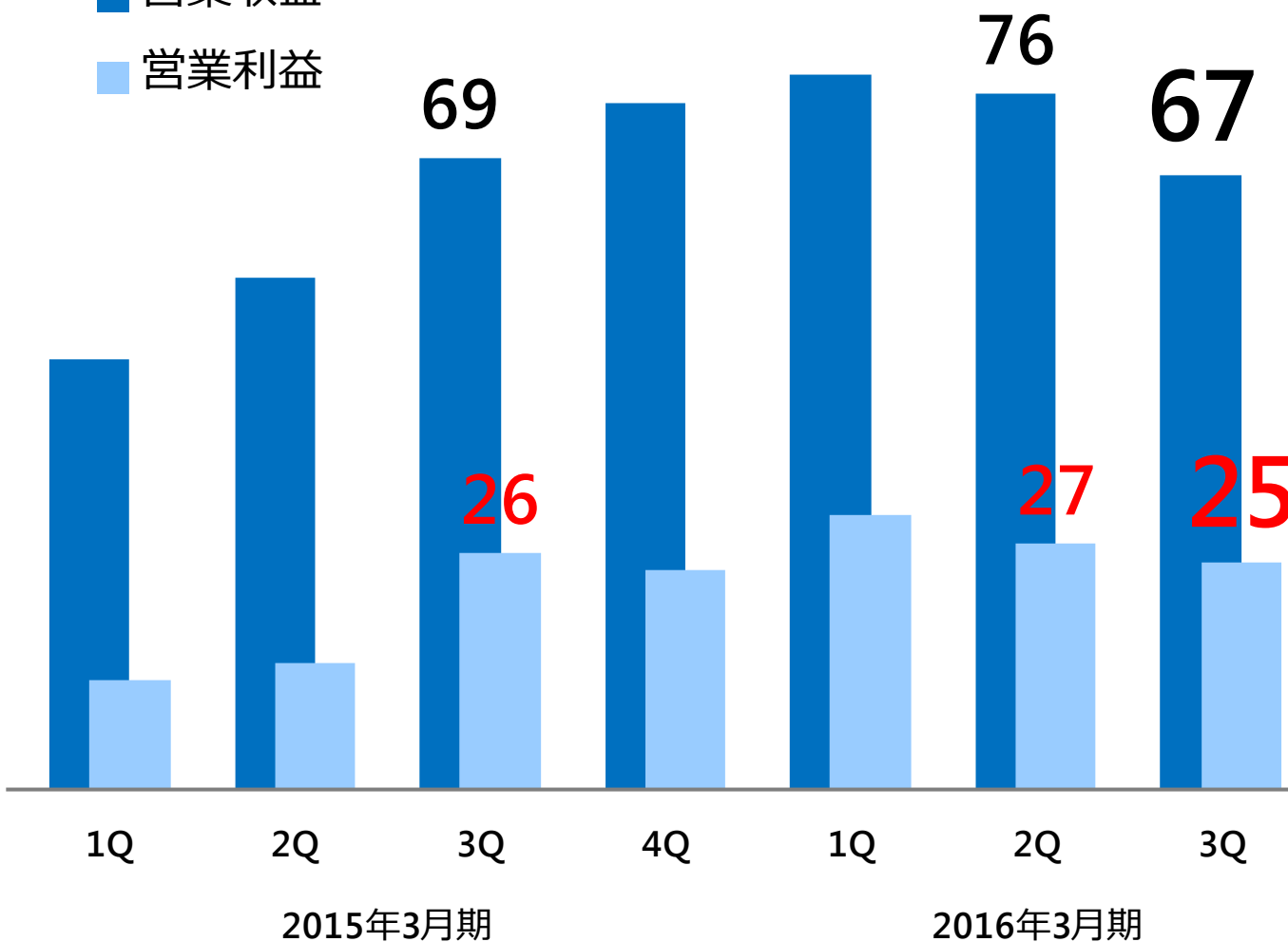
前年同期比**14.3%増**の**27.3億円**
取引所FXの取引量増加などにより増収

トレーディング損益

前年同期比**33.4%増**の**167.7億円**
FXの売買代金の増加などにより増収

(億円)

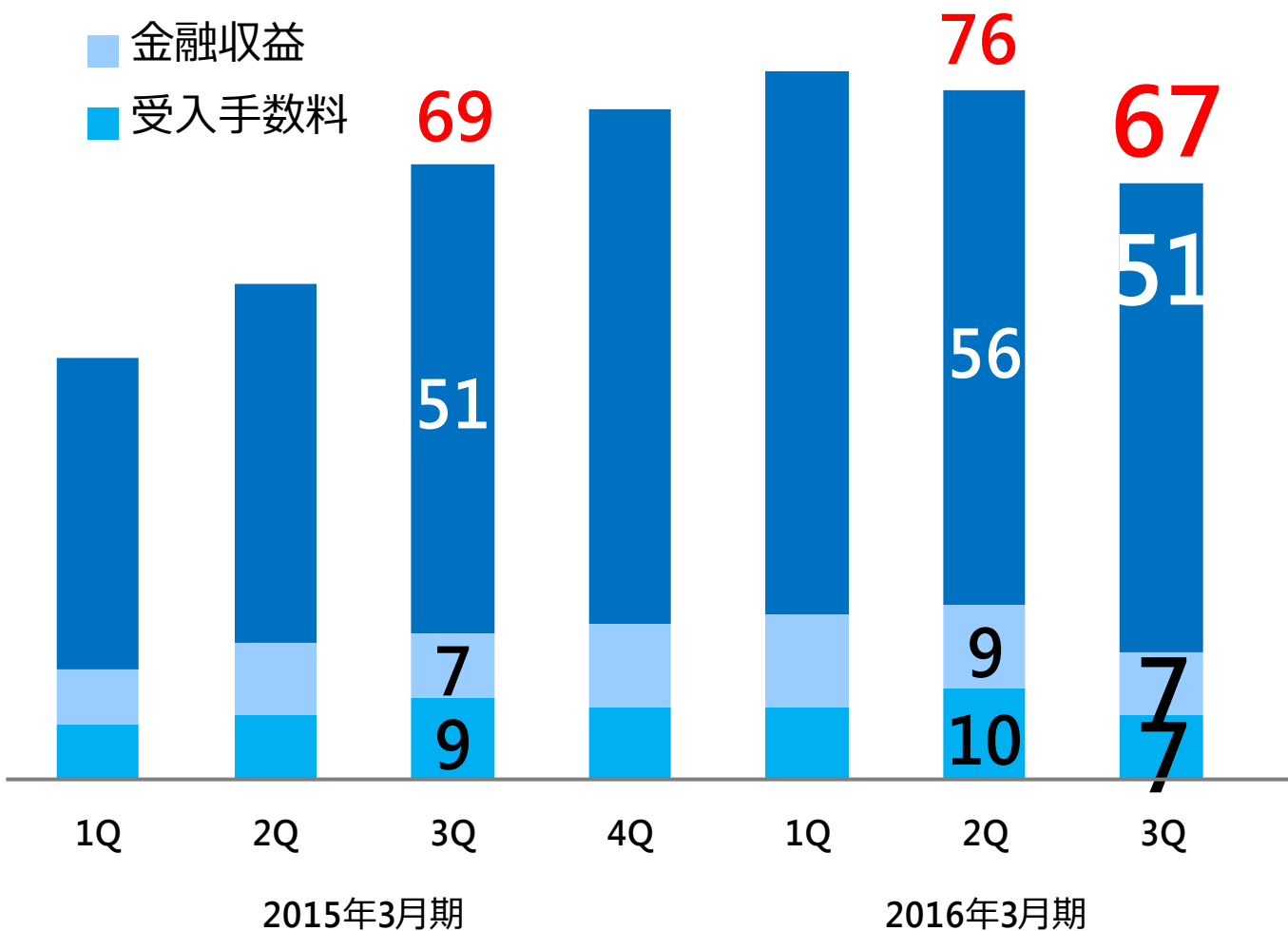
■ 営業収益
■ 営業利益



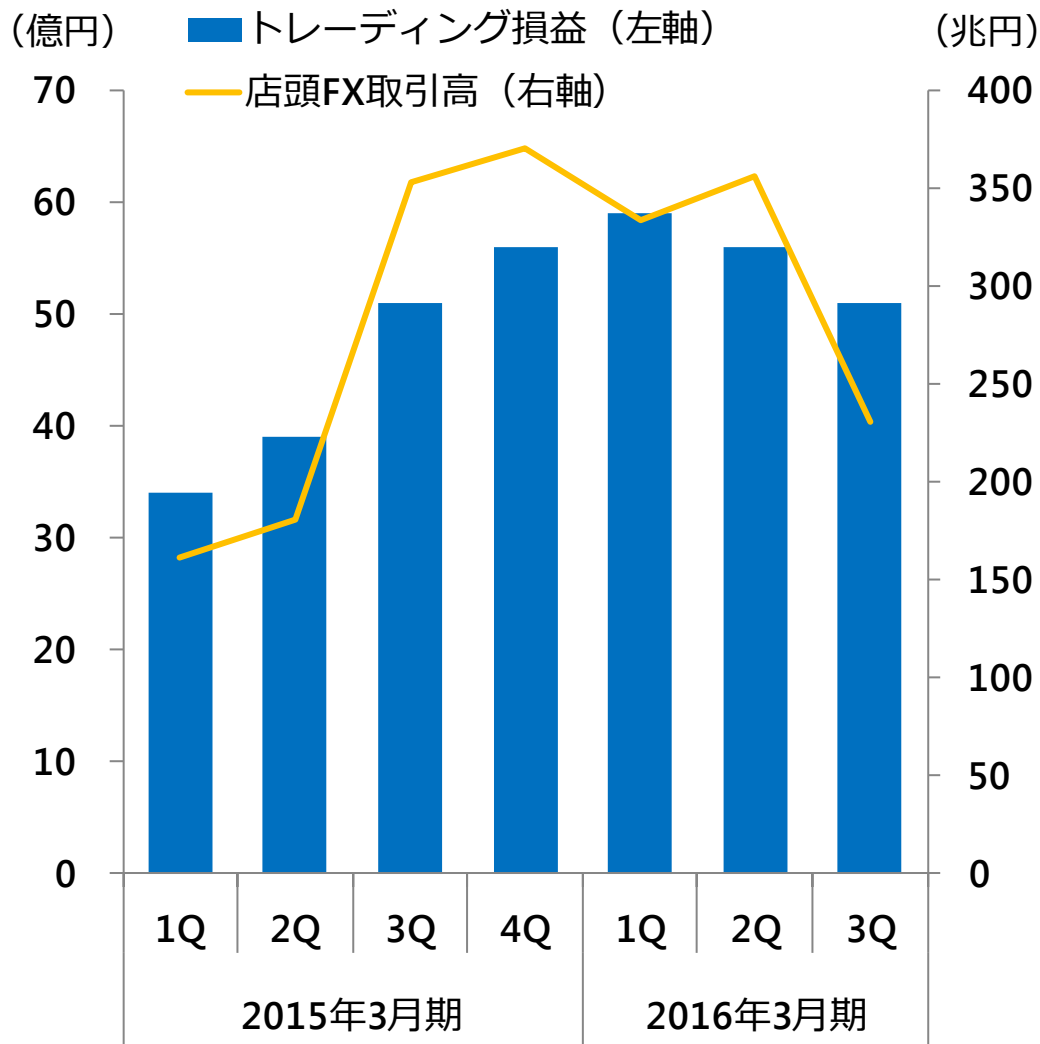
営業収益は減少
営業利益は
高水準キープ

(億円)

- トレーディング損益
- 金融収益
- 受入手数料



取引高減により
前四半期比で
FX収益が減少



TR損益の大半は
店頭FXによる収益

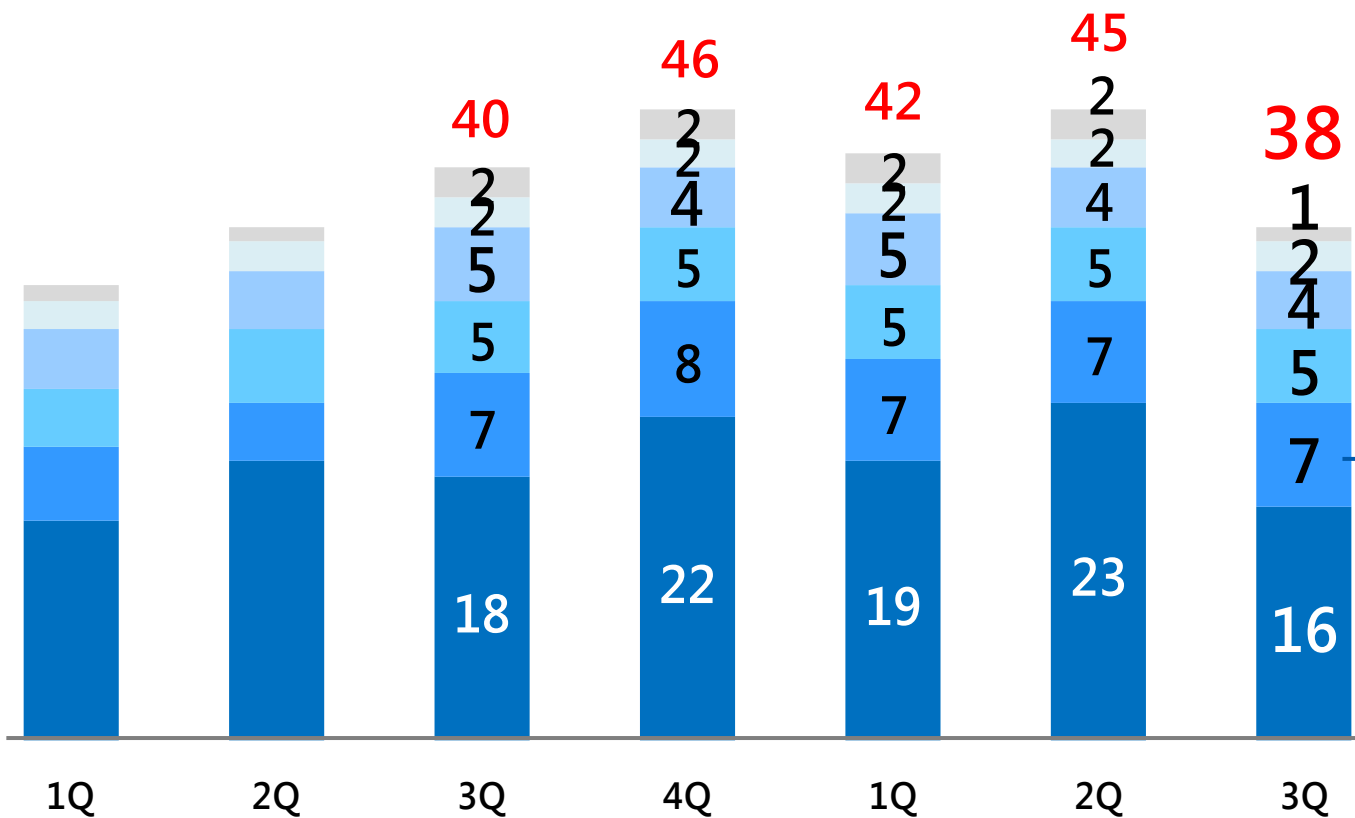
店頭FX取引高が
前四半期比35.2%減も
FXのTR損益は同13.8%減

他商品の成長による
収益貢献もあり
TR損益全体は同8.5%減

出所：GMOクリック証券ホームページ記載の店頭FX取引高の数値より当社作成
※トレーディング損益（TR損益）：店頭FX、店頭CFD、バイナリー・オプション等から得られる収益

(億円)

- 取引関係費
- 人件費
- 不動産関係費
- 事務費
- 減価償却費
- その他



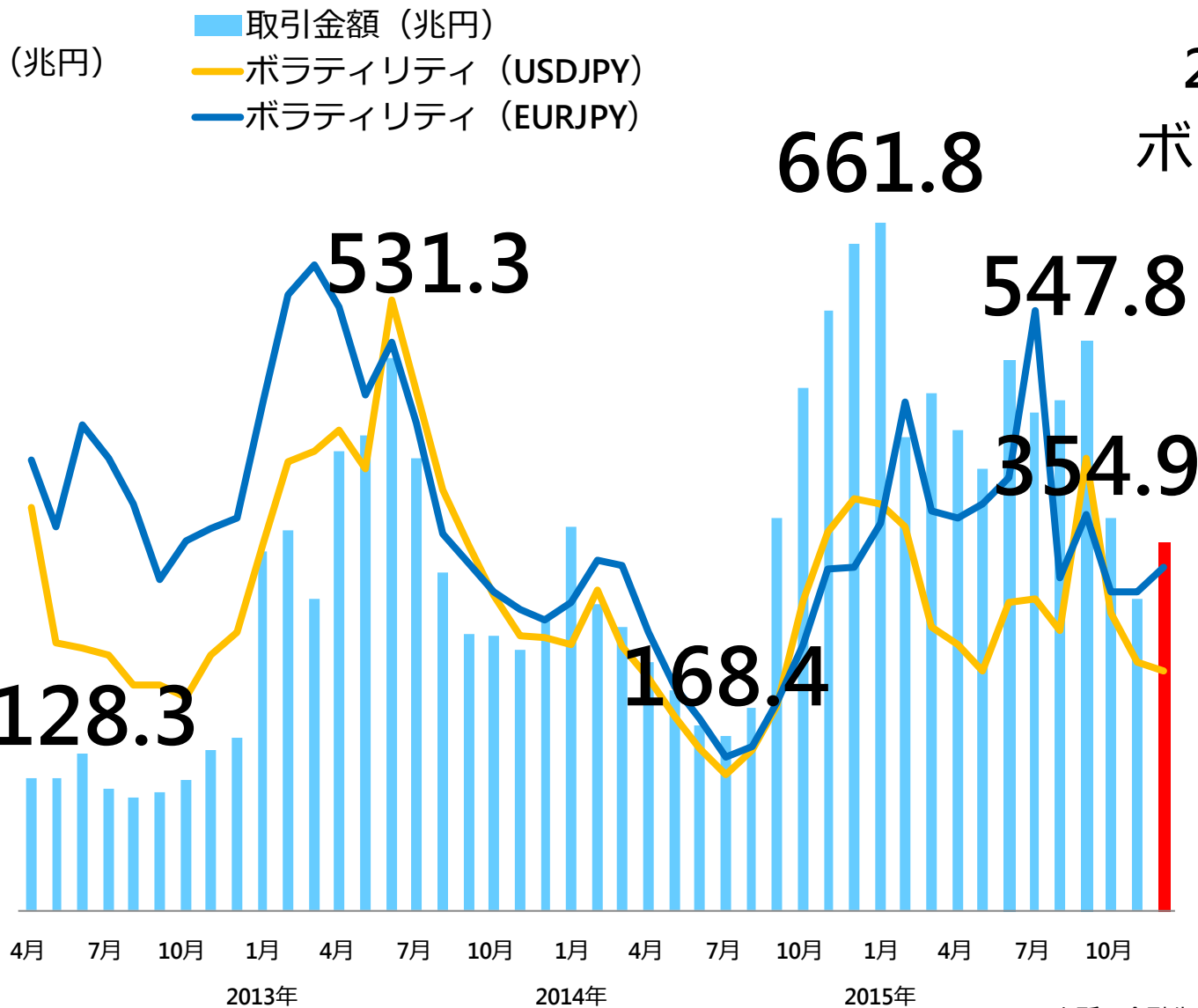
前四半期比で
広告宣伝費・
支払手数料等の
取引関係費減少

販管費全体は、今後も
前期4Q以降の
水準で推移する見込み。
主な変動要因は取引量増減
に伴う支払手数料、ブラン
ド強化等の広告宣伝費

2015年3月期

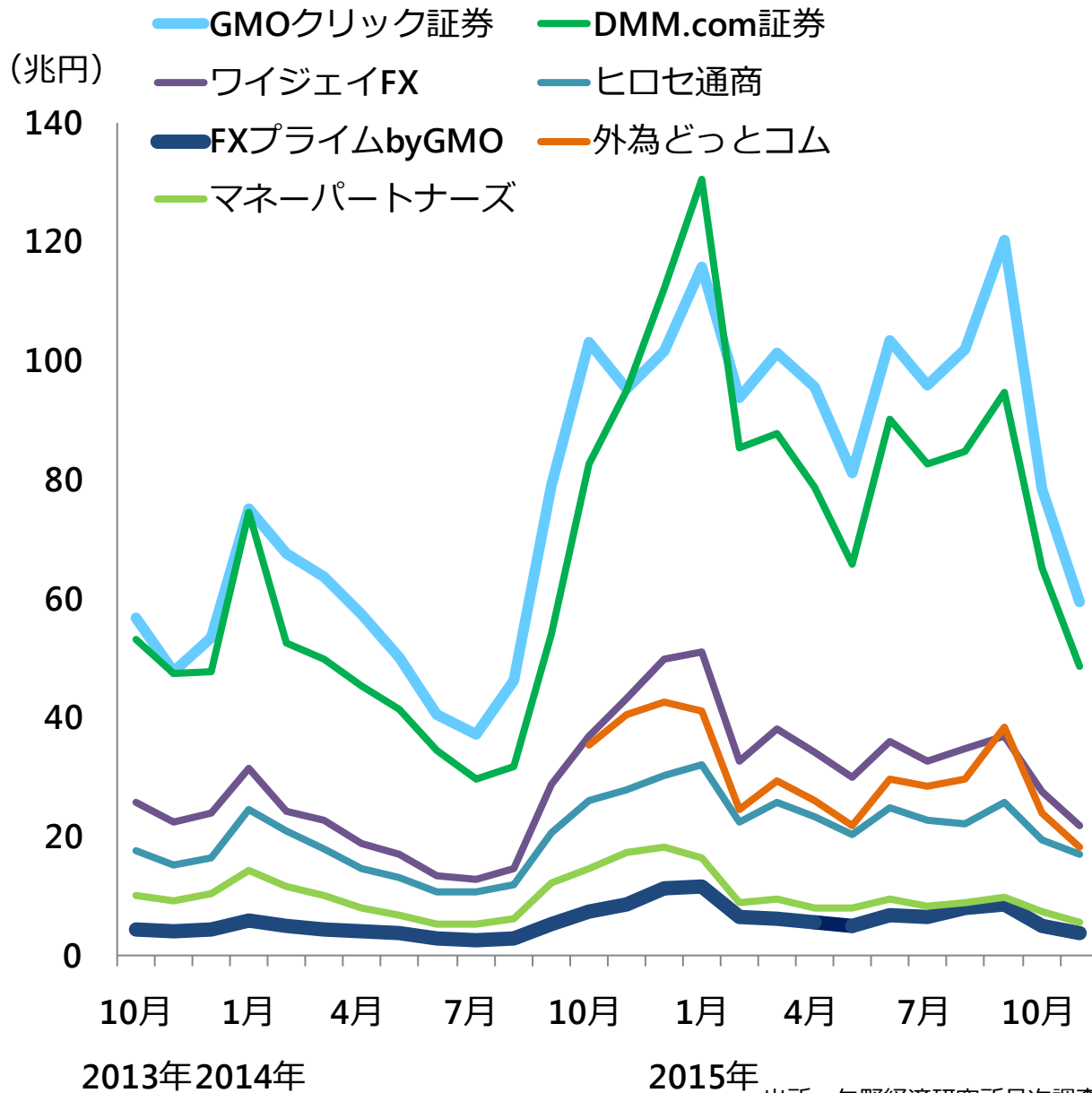
2016年3月期

1. 結論と要約
- 2. 2016年3月期3Q決算概要**
3. ビジネスモデルと特長
4. 今後の展望と概況
5. Appendix



2015年10月以降
ボラティリティ低下
取引量も減少

出所：金融先物取引業協会、当社データより当社作成



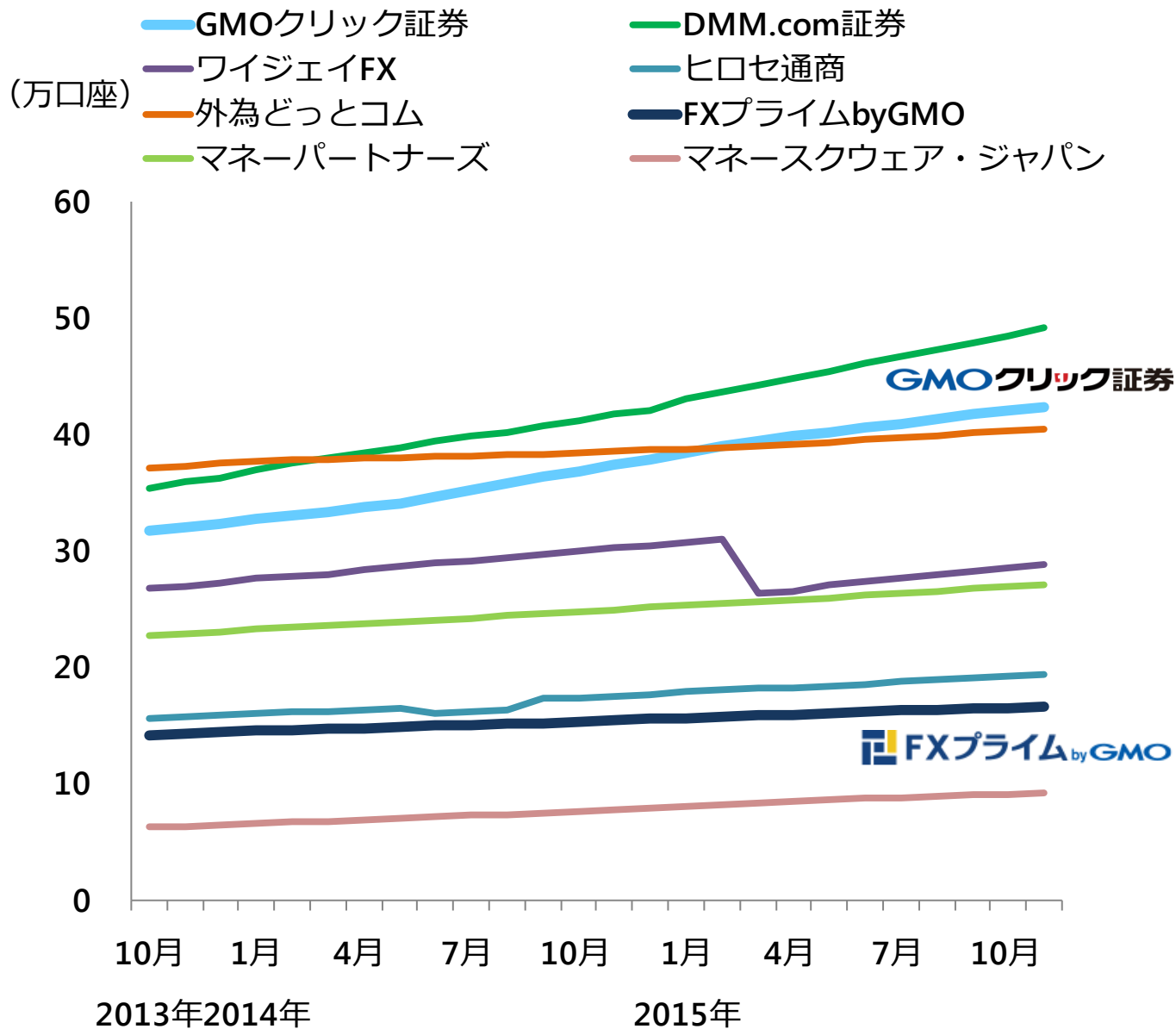
店頭FX取引高

国内第**1**位

GMOクリック証券

FXプライムbyGMO

出所：矢野経済研究所月次調査有力FX企業月間データランキングより当社作成

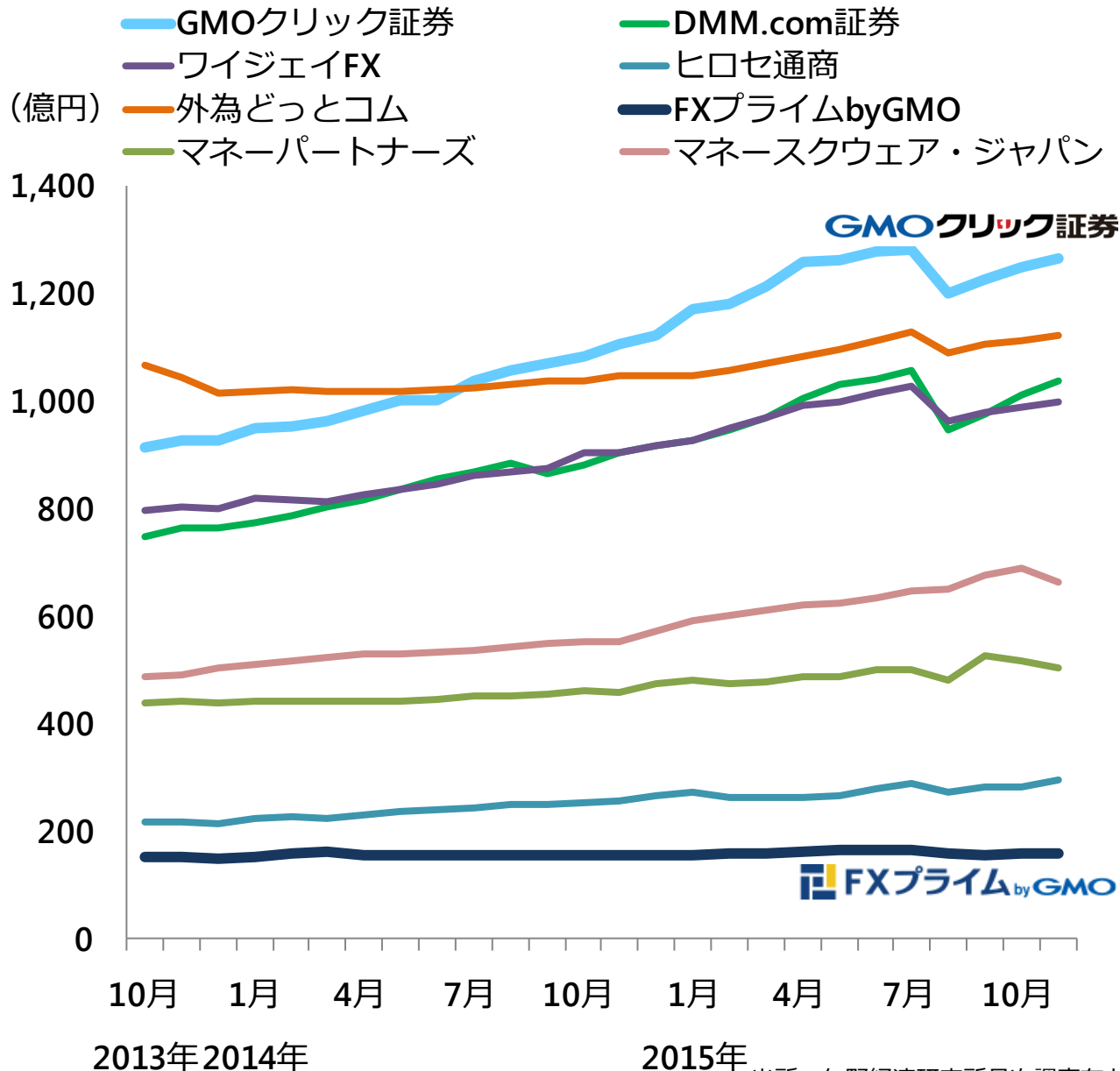


店頭FX口座数

59万口座

(2015年12月末
グループ合計)

出所：矢野経済研究所月次調査有力FX企業月間データランキングより当社作成



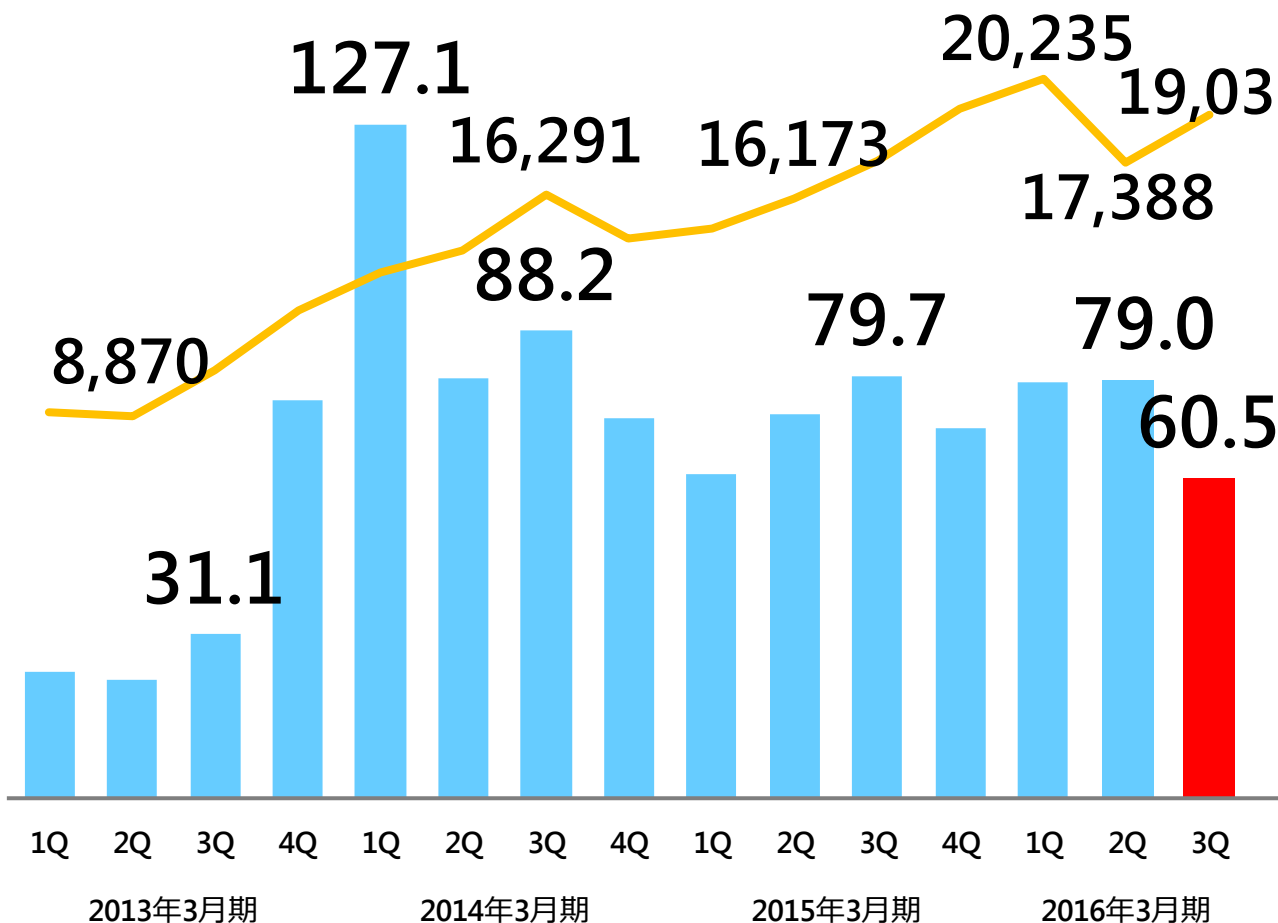
預り保証金残高は
2014年7月末以降

第1位

出所：矢野経済研究所月次調査有力FX企業月間データランキングより当社作成

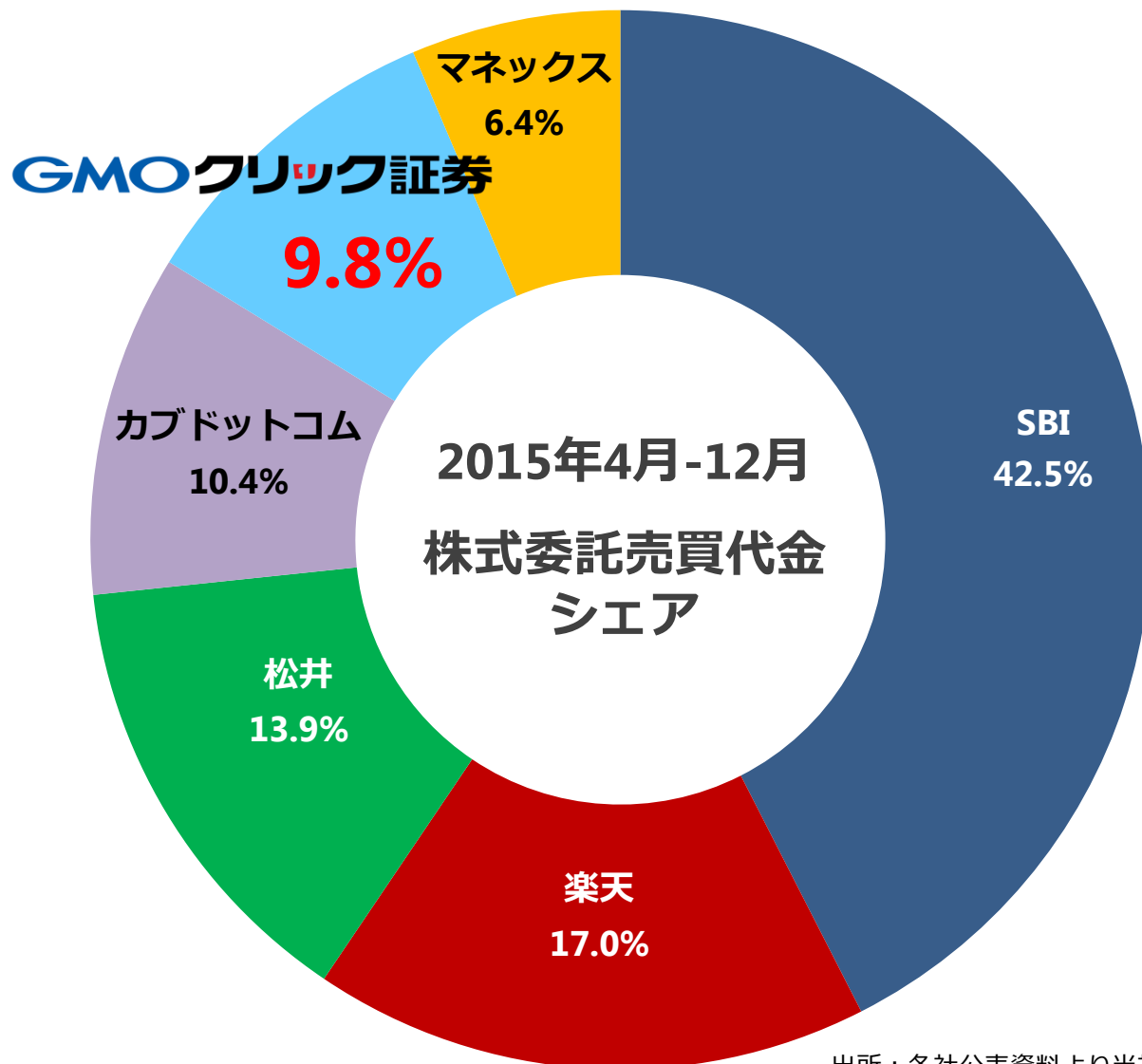
■ 個人株式委託売買代金 (兆円)

— 日経平均株価 (円)



株価は2Qから
3Qにかけて上昇
3Q売買代金は
前四半期比23%減

出所：東京証券取引所公表資料より当社作成
※個人株式委託売買代金は二市場の合計値



株式委託売買代金

シェア第5位

出所：各社公表資料より当社作成

※主要ネット証券株式委託売買代金シェア：GMOクリック証券、SBI、楽天、松井、マネックス、カブドットコムの6社を全体とした場合の各社シェア

1. 結論と要約
2. 2016年3月期3Q決算概要
- 3. ビジネスモデルと特長**
4. 今後の展望と概況
5. Appendix

当社グループはFXディーリング業務を システムにより完全自動化

他社



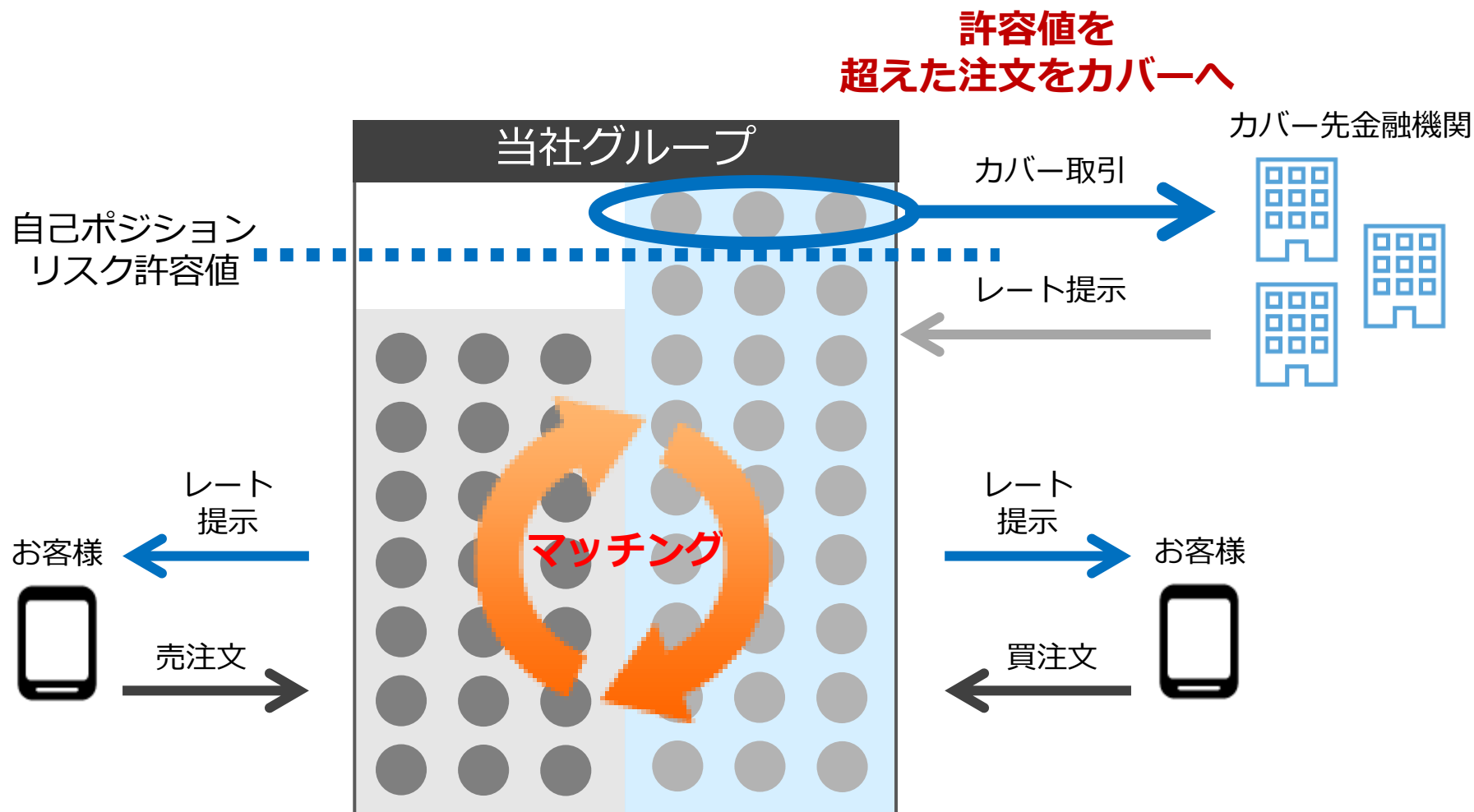
ディーラーによるトレード

当社グループ



システムによる自動化

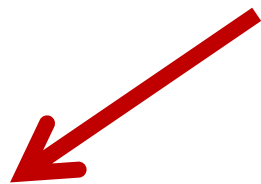
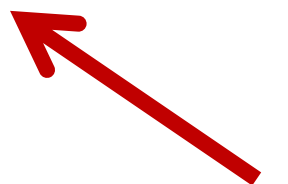
効率的なマッチングと徹底したリスク管理を追求



(上記はイメージ図)

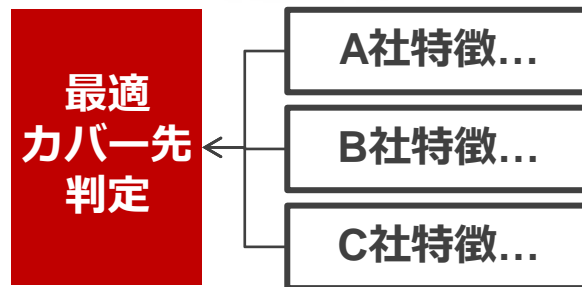
細かなチューニングによりカバー取引を最適化

カバー先金融機関



その瞬間における
最適カバー先へカバー

当社グループ



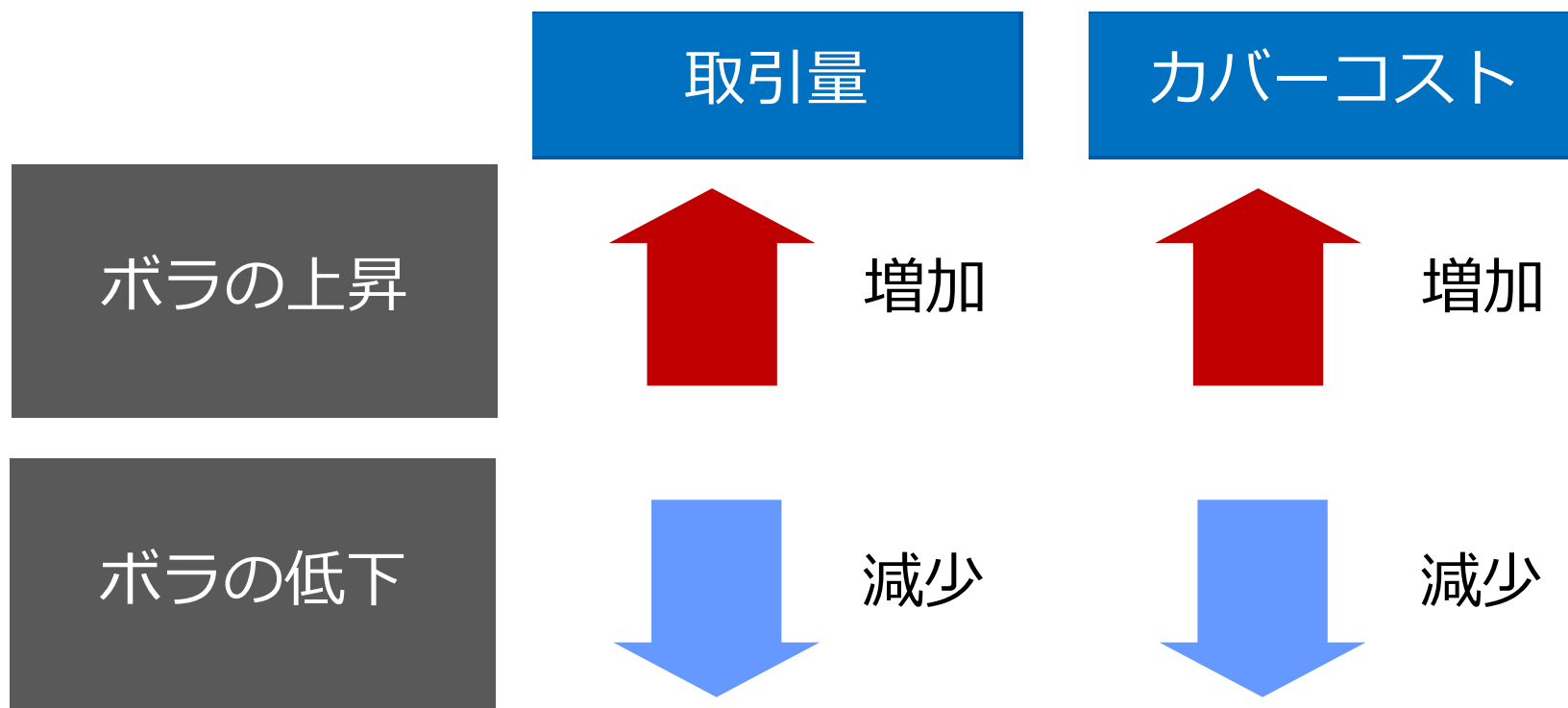
(上記はイメージ図)

ボラティリティと収益の関係

収益
構造

$$\text{対顧客取引} \quad \text{カバート取引}$$

$$(\text{対顧客スプレッド} \times \text{取引数量}) - (\text{カバースプレッド} \times \text{カバー数量})$$



(上記は概念図)

1. 結論と要約
2. 2016年3月期3Q決算概要
3. ビジネスモデルと特長
- 4. 今後の展望と概況**
5. Appendix

収益の柱であるFXをさらに強くし、事業基盤を強化
既存事業（国内・海外）、新規事業へ投資し成長を図る

中長期目標

FX取引高シェアのさらなる拡大をベースに成長

国内
事業

- ✓ CFDを新たな収益の柱に
- ✓ 株式売買代金第3位の達成

海外
事業

- ✓ 海外事業の黒字定着し攻めの体制

新規
事業

- ✓ 新たな金融商品・事業の展開

FXシェア拡大に向け、
世界最速を目指した**新FXシステムが始動**
顧客利便性向上、収益率向上を期待

約定スピード

従来の**6**倍

大口注文に対応

最大**500**万通貨単位
の発注が可能

4通貨ペア追加

NZD/USD EUR/GBP
EUR/AUD GBP/AUD

2016年2月8日

正式リリース

2016年2月26日

現行サービス終了

※約定スピードは当社開発環境での自社測定
※大口注文は通貨ペアによる

ミドルリスク・ミドルリターンの
投資商品・サービス



業界最安値水準のコストで
グローバルな資産運用サービス



相互の事業基盤を活かした
先進的な金融商品・サービス



大和証券グループ本社が当社株式の一部取得
当社グループと大和証券グループとの間で
業務提携の検討開始

大和証券グループ本社
Daiwa Securities Group Inc.

GMOクリックHD
ホールディングス



9.6%出資

※大和証券グループ：株式会社大和証券グループ本社及び大和証券株式会社
※出資比率は2015年12月31日現在の発行済株式総数に対する比率

GMOクリック証券とお金のデザインが業務提携



業務提携の内容

**投資家一人ひとりに最適なグローバル資産運用サービス
(ETF特化型投資一任運用サービス) を低コストで提供**

ETF特化型投資一任運用サービスの特徴

- ・グローバル：世界中の約6000銘柄のETFにアクセス可能
- ・パーソナライズ：一人ひとりにあった最適なポートフォリオを提供
- ・ローコスト：年間の投資一任運用報酬は、業界最低水準を目指す

長期資産形成を支援する サービス・商品ラインナップを強化



**未成年口座・
ジュニアNISA**
(2016年1月取扱開始)

投資信託
(2016年度中取扱開始予定)

今後の展開

- ・ 投資信託についてはノーロード投信を中心にスタートし、順次拡充
- ・ 将来的には、コストを徹底的に抑えた投資商品の開発を目標

目標とする経営指標

自己資本当期純利益率 (ROE) 20%

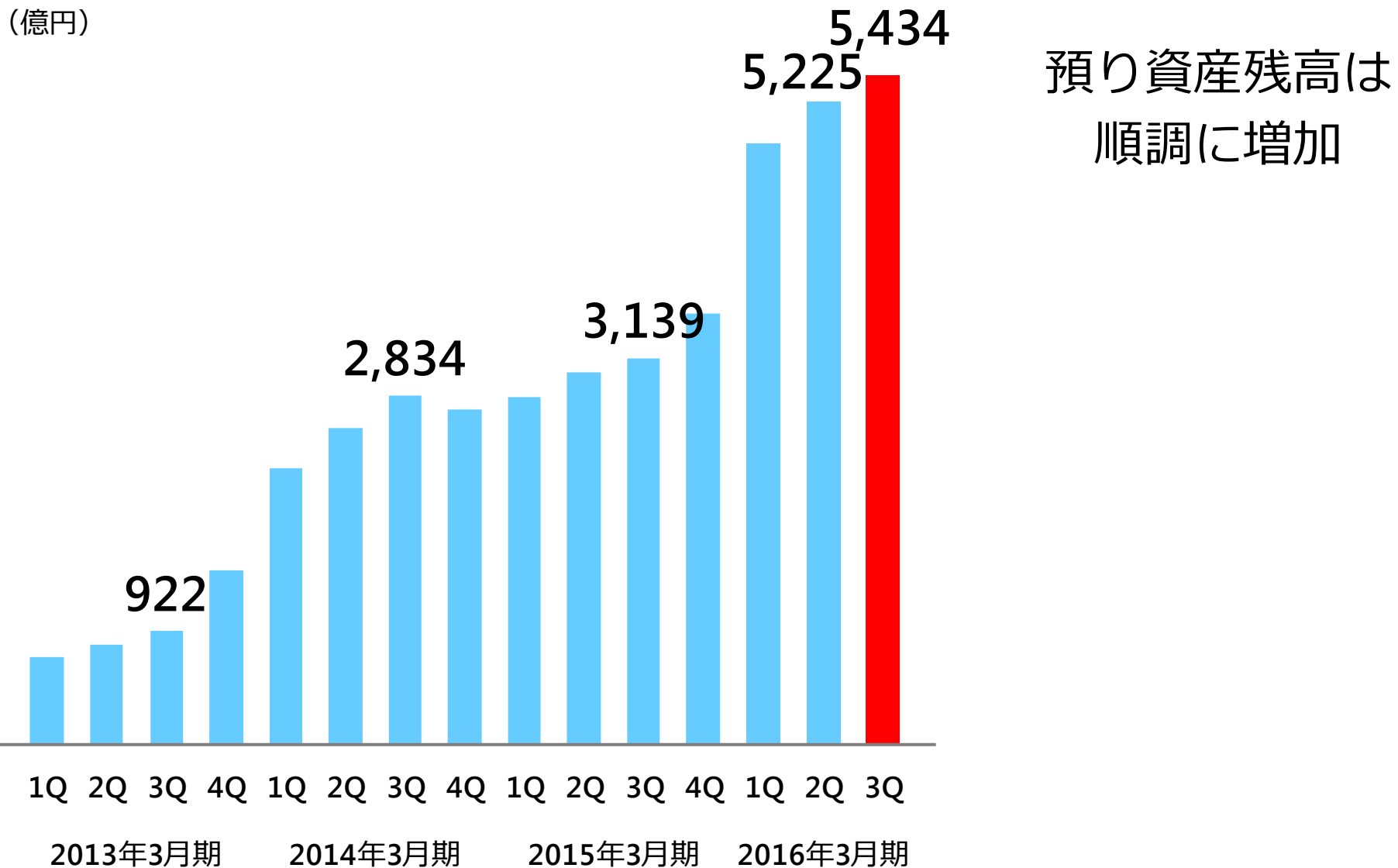
株主還元方針

配当性向の目標 40% (年4回の配当)

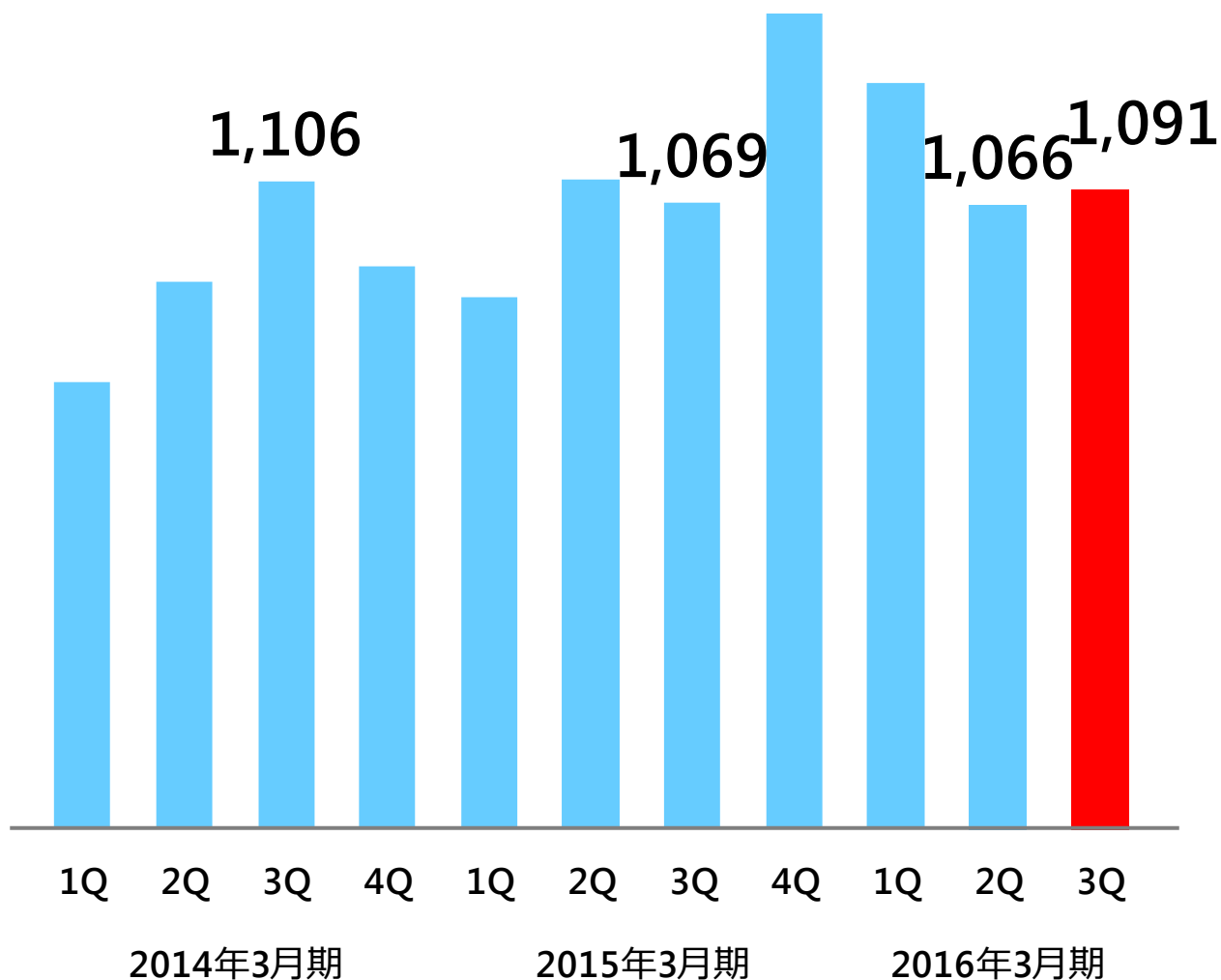
	2016年3月期 配当の状況				
	1Q	2Q	3Q (予定)	4Q	年間
1株あたり配当金	6.38円	5.60円	5.34円	—	—
配当性向	40.1%	40.0%	40.0%	—	—

※2016年3月期第3四半期末の配当金は現時点の予想であり、2016年2月に開催予定の取締役会にて正式に決議予定

1. 結論と要約
2. 2016年3月期3Q決算概要
3. ビジネスモデルと特長
4. 今後の展望と概況
5. Appendix

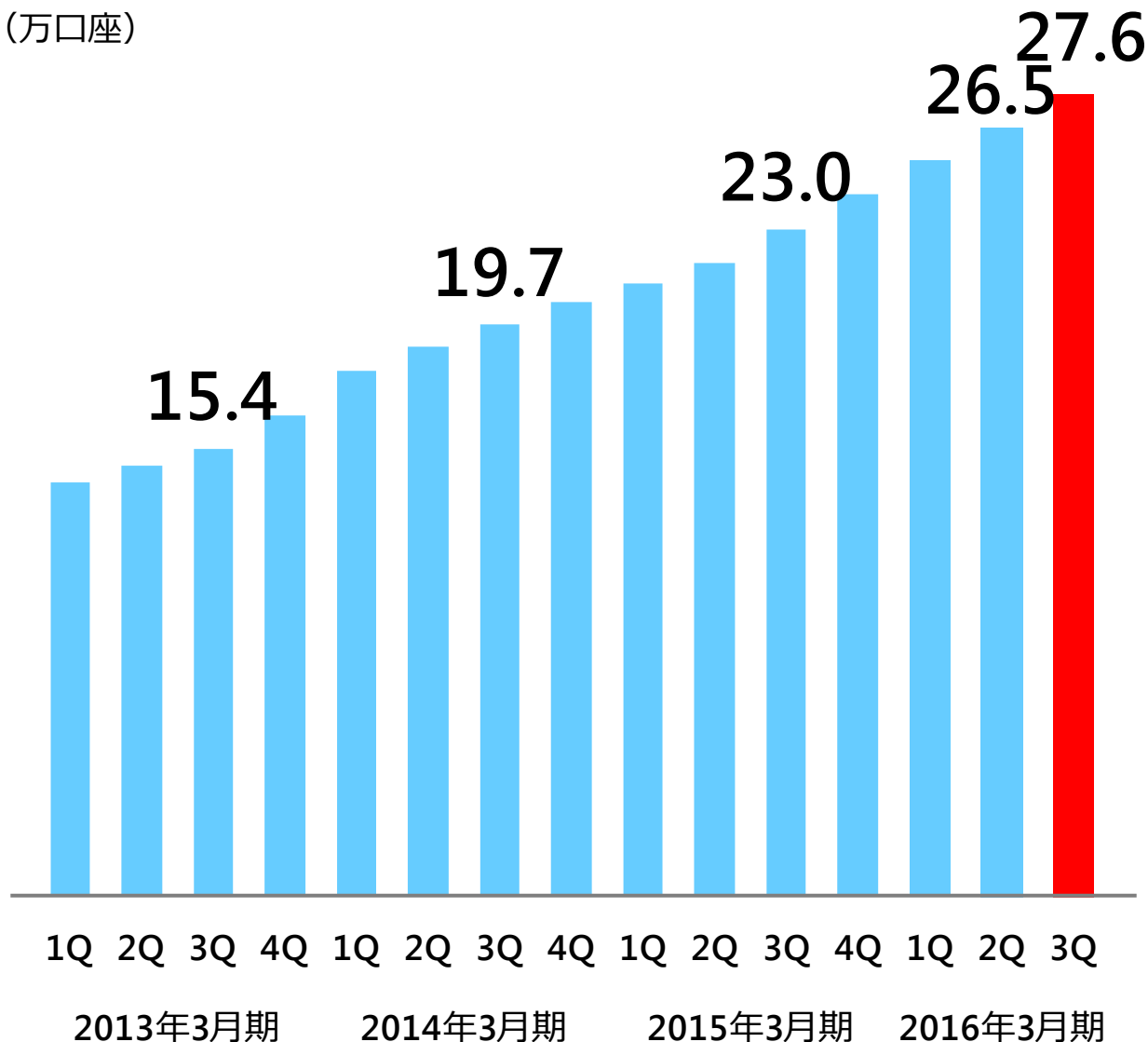


(億円)



信用取引残高は
前四半期比微増

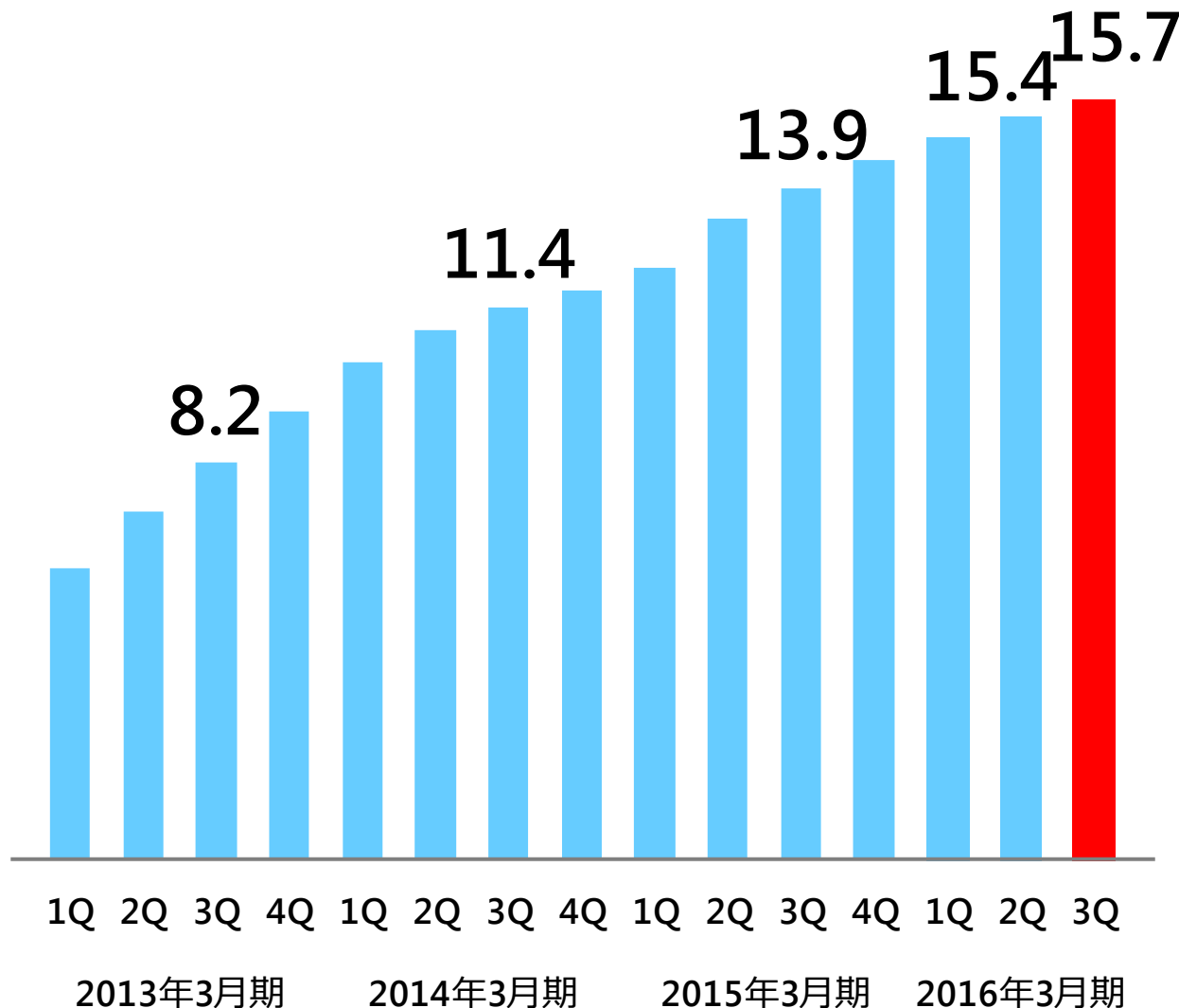
(万口座)



証券口座数は
前四半期末比

1.1万口座増

(万口座)

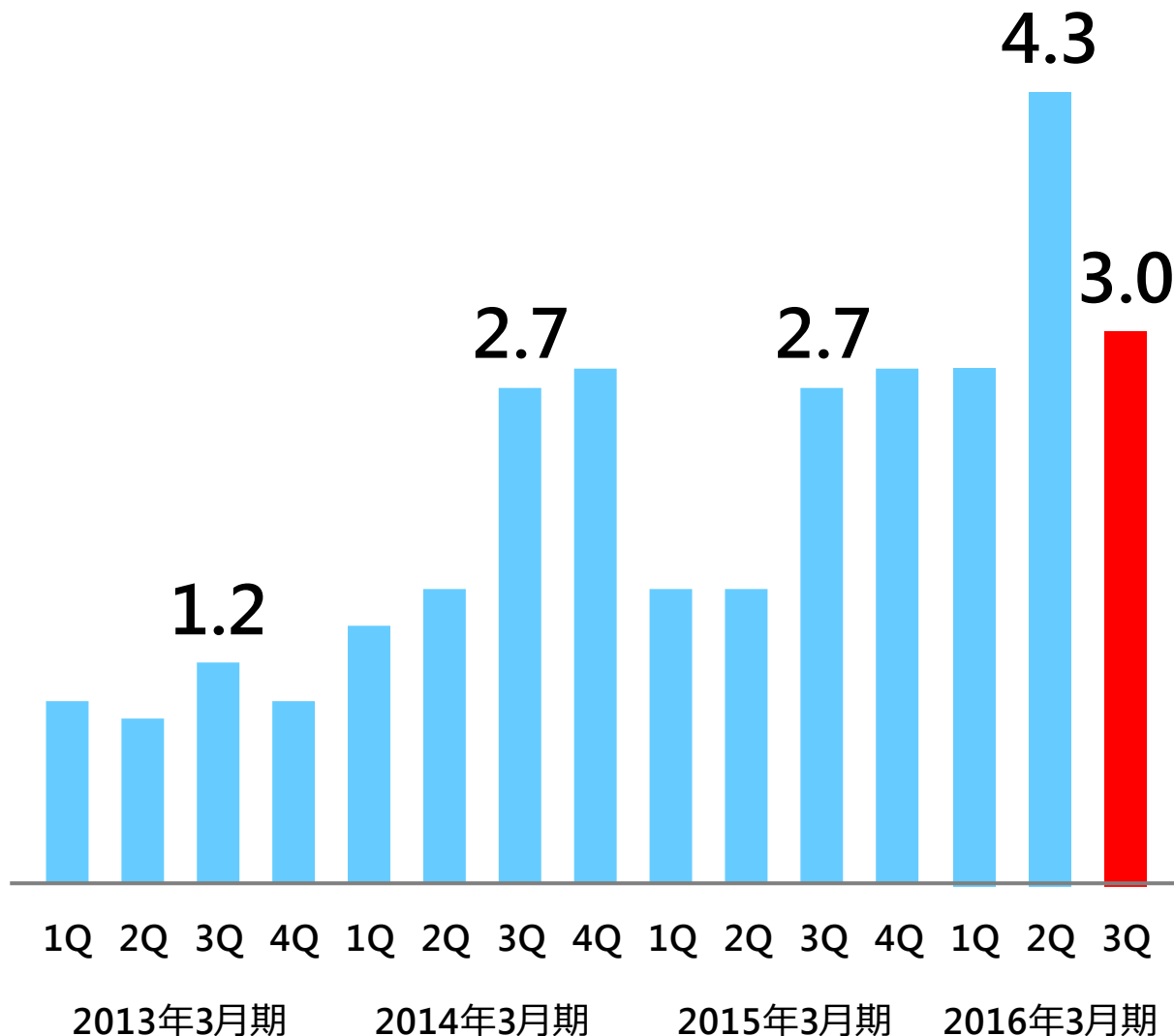


外為OP口座数は
前四半期末比

0.3万口座増

※口座数はGMOクリック証券の取引口座数を参考値として記載

(兆円)



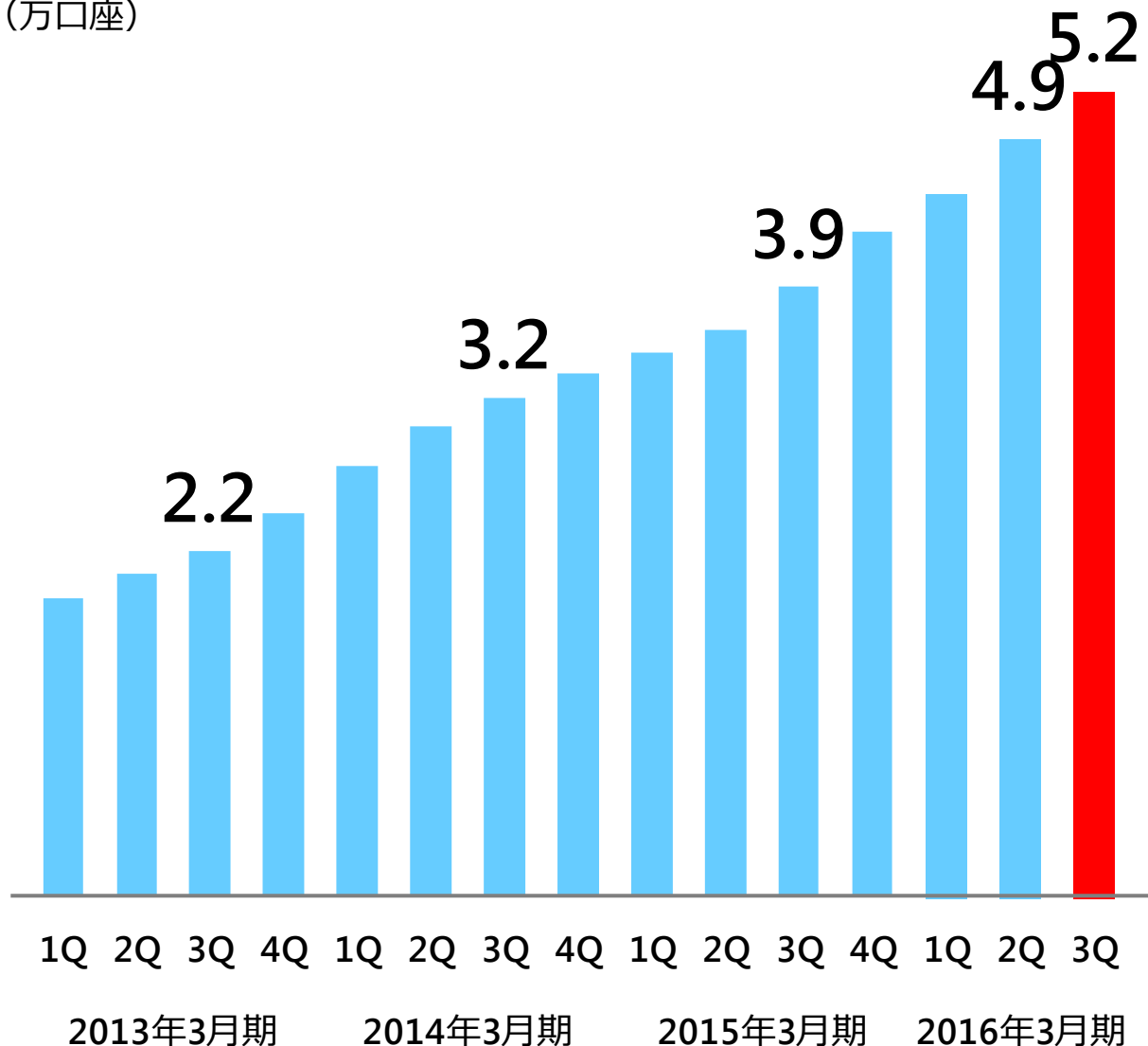
CFD売買代金は
前四半期末比

1.3兆円減

(株価指数CFD関連
の取引が減少)

※売買代金はGMOクリック証券の数値を参考値として記載

(万口座)



CFD口座数は
前四半期末比

0.3万口座増

※口座数はGMOクリック証券の取引口座数を参考値として記載

GMOクリックホールディングス

本資料には、2016年1月25日現在の将来に関する前提、見通し、計画等に基づく予測が含まれています。世界経済、競合状況、為替の変動等にかかわるリスクや天変地異などの不確定要因により実際の業績が記載の予測と大きく異なる可能性があります。またマーケットシェアなどの数値について一部弊社推計値が含まれております。調査機関によって異なる可能性があります。

また本資料に掲載されている情報は、情報の提供を目的としたものであり、投資の勧誘を目的としたものではありません。また本資料内に記載されている業績予想などの将来の予測に関するものは、リスクや不確定要因を含みます。実際の業績は経済情勢や市場環境など、さまざまな要因により、かかる予想とは大きく異なることがあることをご承知おきください。当該情報に基づいて被ったいかなる損害に関しても、その理由の如何に関わらず一切の責任を負うものではありません。